

第13回平和首長会議理事会総括文書

今回の理事会においては、様々な問題提起をし、次期総会において各加盟都市の合意形成を図るべく事務局において引き続き検討することとなったが、理事会における議論は以下のとおりである。

平和首長会議は、1982年の設立以来、世界の都市と連帯し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた取組を進め、現在166か国・地域の8,426都市が加盟する平和都市のネットワークに成長した。こうした中、2024年10月28日及び29日の2日間、第13回目となる平和首長会議理事会を英国・マンチェスター市で開催した。

理事会では、まず、現行動計画の取組状況について総括するとともに、ドイツ・ハノーバー市からドイツ支部の活動について、ポルトガル・エヴォラ市から青少年向けの平和文化の振興に向けた活動について、それぞれの取組が報告された。

続いて、次期行動計画の取組の方向性について協議を行い、今後、平和首長会議の活動を地球規模で実効性のあるものにしていくため、地域ごとにリーダー都市が中心となって、各加盟都市が主体的に活動できるような体制づくりを具体的に進めていくこと、PXビジョンの目標を達成するために極めて重要な役割を担う、「被爆や戦禍の実相の発信」及び「次代の平和活動を担う青少年の育成」を重点的な取組として、組織的に取り組んでいくことなど、基本的な方向性について合意した。そして、今後、来年8月に長崎市において開催する第11回平和首長会議総会における次期行動計画の策定に向けて、引き続き役員都市をはじめ関係者と議論を深めていくこととした。

次に、来年の被爆80周年における取組予定について事務局から報告を行い、第11回平和首長会議総会の運営方針について意見交換を行うとともに、米国・ニューヨークの国連本部で開催予定のこどもたちによる“平和なまち”絵画展の開催や青少年「平和と交流」支援事業の再開、世界各地における平和首長会議原爆ポスター展の開催等に取り組んでいくことを決定した。

さらに、平和首長会議の各加盟都市が、今後ともPXビジョンの目標の達成に向けた活動を着実に継続していくために、財政基盤の充実に取り組んでいく必要があることから、メンバーシップ納付金の納付率向上及び事務局への寄附金の募集方法について、意見交換を行った。

以上のことに加え、今回の理事会に合わせて、スペイン・グラノラズ市を事務局とし、ヨーロッパの役員都市等で構成されるヨーロッパ支部会議及びマンチェスター市が事務局を務めるUK・アイルランド支部会議が開催され、各地域における取組について議論を行った。

2025年は、広島・長崎への原爆投下、そして第二次世界大戦終結から80周年を迎える。私たちは、市民の安心・安全な生活を守る使命を担う自治体の首長で構成される組織として、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、市民社会に平和文化を振興し、「平和文化」を共有できる世界を創っていくため、世界中の平和を願う加盟都市とより一層連帯を深めながら、協働していくことをここに宣言する。

最後に、本理事会の開催にあたり、ホスト都市として会議運営と参加者の受け入れについて多大なるご尽力をいただいたマンチェスター市に対し、改めて謝意を表す。

この総括文書はすべての加盟都市へ送付するものとする。

2024年10月29日
第13回平和首長会議理事会